



## 「蛇ぬけ」の教訓

原 一 儀



### 1. 梨子沢の土石流災害

平成 26 年 7 月 9 日に長野県南木曽町梨子沢で台風 8 号の豪雨により、大規模な土石流災害が発生し、死者 1 名、負傷者 3 名、家屋全壊 10 戸、浸水家屋 9 戸等の被害が発生した。また、県道・町道橋 4 橋、JR 橋梁 1 橋が流失し、国道 19 号線は崩壊等により交通止となり、同時に砂防堰堤及び流路工等も大きな被害を被った。

### 2. 土石流の発生状況

梨子沢の主峰は南木曽岳（1,679 m）で急勾配の山腹斜面で形成されている。

上流域は花崗岩が分布しており風化（真砂土）厚は概ね 1 m 程度である。

風化の層が薄いため滑り面までの降雨浸透が速く、土層の水分貯留量が少ないため、時間 97mm の豪雨直後に土石流が発生し、その後河床堆積物を巻き込みながら発達し、扇状に直進して木曽川まで流下したと考えられる。

### 3. 過去の土石流災害

南木曽地方では明治以降、土石流等の災害が繰り返して発生していた。特に昭和 41 年 6 月の豪雨では 9 つの溪流で次々と土石流が発生し激甚な被害が起きた。

- ・ 明治 37 年 7 月 死者 39 名 流失 78 戸
- ・ 昭和 28 年 7 月 死者 3 名 流失 8 戸
- ・ 昭和 36 年 6 月 死者 1 名 全壊 1 戸
- ・ 昭和 40 年 7 月 全壊 17 戸
- ・ 昭和 41 年 6 月 負傷者 10 名 全壊 38 戸
- ・ 昭和 44 年 8 月 全壊 8 戸

### 4. 「蛇ぬけ」の碑

南木曽地方では、流れ下る土石流の様子を蛇に喩えて、古来より土石流を「じゃぬけ（蛇ぬけ）」と呼んできた。

昭和 28 年 7 月、伊勢小屋沢の蛇ぬけ災害によって犠牲になった 3 名の霊を慰めると共に、この災害によって得られた幾多の教訓を後世に伝え、再びこの惨事を繰り返さない事を念願し「蛇ぬけの碑」を溪流の岸辺に建立した。

碑には地元に残る土石流災害の前兆・予兆現象を刻み後世の戒めとした。

#### 蛇ぬけの碑

白い雨が降るとぬける 尾先 谷口 宮の前  
雨に風が加わると危ない  
長雨後 谷の水が急に止まったらぬける  
蛇ぬけの水は黒い  
蛇ぬけの前には きな臭い匂いがする

地元の方々は梨子沢の土石流が発生する直前の豪雨を「雨で真っ白の状況…」と口を揃えて訴えていた。

### 5. 蛇ぬけの教訓

伊豆大島、広島市、南木曽町等の災害においては、想定外の豪雨の後に大規模な土砂災害がおきた。

土砂災害は「土石流」「地滑り」「崖崩れ」に区別され、その其々に特色ある前兆・予兆現象が現れるといわれている。

「蛇ぬけの碑」は想定外の豪雨の発生を肝に銘じ、「前兆・予兆現象に細心の注意を払い」早期の対応、「自発的な行動（水平・垂直避難）」を強く訴えている。



被災全景



蛇ぬけの碑

蛇ぬけの碑は

「避難が、空振りに終わってもいいじゃないですか。」

「その行動が命を守ることに繋がるのですから。」

と悲慘な経験を胸に、強く語り続けている。

注) (独)防災科学技術研究所の「台風 8 号による南木曾  
土石流災害」等を参考にさせて頂いた。

——はら かずよし 災害復旧技術専門家,  
(株)不動テトラ 参与 中部支店部長——

